

みつくら

令和 7年 3月15日 第430号
発行 大瀬川活性化会議
編集 「みつくら」編集委員会
花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

あじさいの会が体力測定

八区のボランティア組織あじさいの会(板垣福子会長)では、1月28日に花巻市長寿福祉課による体力測定会が開かれ9名が参加した。指導は健康福祉士・管理栄養士・保健師・理学療法士の4人で、毎週火曜日に続けている「元気でまっせ体操」を解説つきで行い、身長と体重比で知るBMI(肥満度)も測定した。他にも「5m最大歩行速度」「開眼片足立ち」「足指握力」「握力」「長座位体前屈」「動作の速さ」などを測定しながら、どこの筋肉を使ってどのような効果があるかの説明を聞いた。各自に体力測定評価表が配られて前回との比較が出来る「体力バランス表を貰い終了した。

大瀬川たろし滝測定保存会が総会

大瀬川たろし滝測定保存会の総会が2月2日に行われた。開会のあと熊谷幸夫会長が「本日はご来賓の方々のご臨席を頂き総会が開催出来てほっとしています。今回は51回目の測定会が予定されていますが、これまでの天候をみるとかなり心配しております。本来であれば昨年度は50周年にあたり記念事業と記念誌の発行を行う处ではありましたが、前会長の顧問の板垣寛さんが自費出版で50年間のたろし滝の記録を残されていますので感謝しております。本日は慎重審議をお願い致します」と挨拶した。続く3名の来賓の祝辞では、初めに花巻市長の代理で佐藤多恵子石鳥谷支所長が「石鳥谷の冬の風物詩となった、たろし滝の測定会の為に多くの人達がご尽力をされていることに敬意を表します。今年も立派なたろしが出来ることを願います」と述べた。続いて、花巻観光協会の佐々木豊専務理事が「たろし滝は全国的に次第に知られるようになり冬の観光資源となっております。また自然が作り出す貴重は造形美です。各地でも色んな作柄を占う行事がありますがたろし滝は珍しい事だと思います。今後も継続をお願い致します」と述べた。地域を代表して熊谷秀夫大瀬川活性化会議会長からは「私も稲作農家の一員です。昨年の作況指数はこの辺は106と発表されましたが実感としてはそこまで感じませんでした。農家は本当に天候に左右されますが

今年も特に注意したいと思います」と述べた。

議長に菅原得之さんが選出され議事に入り提出された2件の議案が満場一致で可決されて終了した。その後出席者全員に板垣寛(顧問)さんの著書「たろし滝と共に50年」が配布された。5年ぶりに懇親会が行われ5時近くまで親睦を深めた。

岩肌から雫のたろし滝測定会

2月11日に第51回のたろし滝測定会が行われ75名が参加した。板垣和郎さんの司会で始まった御神楽奉納は、太鼓の熊谷美奈子さん、鉦の畠山好之さん、笛の熊谷和典さん、権現舞は藤原美輝さん、米上げ(よねあげ)は熊谷茂さん、下舞(したまい)は熊谷雅人さんであった。

その後、測定会に先立ち熊谷幸夫会長は「このとおり足元の悪い中、たろし滝測定会において下さいました上田花巻市長はじめ、来賓の方々、そして皆様に深く感謝を申し上げます。昨日の午後は、3分の1程垂れ下がっていたたろしが崩落し、見てのとおりの岩肌には何にもありません」と述べ、たろしが落ちた場所に会員が過去最大の8メートルの太さで測定用テープを回したあと、上田花巻市長からは「測定不能」と発表があった。

恒例の会長川柳は「雄姿なく高い米価に恵しぼり」と披露があり、上田花巻市長からは「51回も続けられてこられた皆さんに心が敬意を表します」と祝辞の後に「姿なき氷の柱に祈りある」、また、佐々木順一岩手県議会議員は「また消えたたろしの心推し量れ」、次は達増拓也知事の「幾年(いくとし)もつないだ想い未来へと」を熊谷会長が代読し、高橋雅彦岩手県南広域振興局副局長は「見上げては豊作願う夢雫」と詠んだ。高橋利光花巻農業協同組合長が和歌で「たろし滝豊作願ひここに立ち米価期待し天仰ぐ」と詠んだ。

最後は、松山洋都立大学教授から、「地理環境科学を研究しているが51回も測定会を続けられたのに敬意を表します。私は第20回から来ていますので32回目となりました」と挨拶があった。このほかに来賓で紹介された方々は、佐藤多恵子花巻市石鳥谷総合支所長、佐藤現市議、横田忍市議、小森田郁也市議、高田工業、長澤工務店などであった。

測定会ではこれまで板垣弘清さんが写真を撮影していたが、昨年から菅原昇さんが担っている。また、昨年までは「たろし滝讃歌」の斉唱があったが今年はなかったのは残念であった。CDだけでも流さないで廃れるのではないかと思います。

ほかに、交通安全協会大瀬川分会の皆さんの協力で交通誘導が行われ、菅原文子さんと板垣江利子さんの二人(ボランティア団体)が受付や接待に携わった。帰りには、今年もパンフレットと袋入りのひつつみにジュースが配られた。

大瀬川たろし滝測定保存会では測定会に先立ち、1月15日の橋架け後の1月19日に役員18名で幟旗立てをし、2月9日には20名が参加して道踏みを行ったが雪の締まりが悪く急な場所は階段状にならなかった。その後、2月22日には幟旗の撤収を行い、3月2日には架設橋も撤去された。

農協の冬季座談会

花巻農協の大瀬川地区冬季座談会は、2月5日に26名(内農協6名)が出席して大瀬川振興センターで開かれた。

菅原純一第八区農家組合長の司会で始まり、藤原正彦花巻農協理事からは「日頃、組合員の皆様方には農協に対しましてご協力をいただきましてありがとうございます。今回の座談会をとおして、よりよい農協運営を行いたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします」と挨拶があった。その後、担当者から令和6年度の実績概要と令和7年度の経営方針の説明があり、組合員との意見交換が行われた。

閉会後、藤原理事へ「(土)(日)のATM利用料が無料なのは農協だけで有難い」と話したところ「まだ決まっていないが、少なくとも3月いっぱいはこのままです」と話してくれた。

山祇神社で紀元祭・歳祝祈禱祭・どんと祭が行われる

去る2月11日に山祇神社では、直町宮司のもとで役員・氏子総代の方々と紀元祭とどんと祭を行った。紀元祭では、氏子分の祈禱札を神殿にお供えし、直町宮司が祈禱し後日総代が各氏子に配布となった。

続いて歳祝祈禱祭に入り、厄年の7名が参列するなか、申し込みのあった本厄の板垣勇司さんと菅原彩加さんを含めた31名の名前を読み上げての祈禱を行った。御札と御守りは総代を通じて配られることになっている。

最後は境内に移り、直町宮司のご祈禱で、氏子から予め集まっていた古い御札や正月飾りを焼くどんと祭を行い終了した。

訃報

向竈家の菅原マツノさんは2月8日に102歳と10ヶ月で亡くなられました。これまで大瀬川の最長寿者は、林家の辻村スミ子さんが103歳4ヶ月でしたので、これに次ぐ長寿者でした。

菅原さんは向家のお生まれで、38歳の時に直ぐ西側に分家し、畑中家の菅原ハツヨさんのお世話になりながら田植えや稲刈りや炭焼きなどで稼いだ方でした。また一緒に、菅原伊惣治さんたちが、大瀬川に「さんさ踊り」を復活した時には、畠山登さん(杉ノ下家)や菅原四郎さん(田中竈家)などと踊り始めた仲間でもありました。(有)菅原ニット(菅原新太郎代表、万吉竈家)には、奥様の利子さんと小学校の同級生でもあり、創業と同時に勤務されました。菅原さんは趣味も多彩で、縫物や踊り、特にゲートボールでは常に菅原サツさん(中ノ家)達と7区の代表選手でした。

また、曾孫の弔辞では「裁縫を教わり、今では自分でもボタンがつけられるようになり、とっても優しくしてくれた」と話されました。

女手一人で家業を支え続けられました菅原さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。